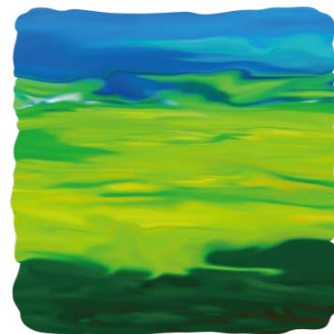


持てるすべてを「いのち」に向けて。

Dedicated to sustaining all life.

2019年度決算概要説明資料



NORINCHUKIN

農林中央金庫

2020年5月27日

2019年度決算の概要

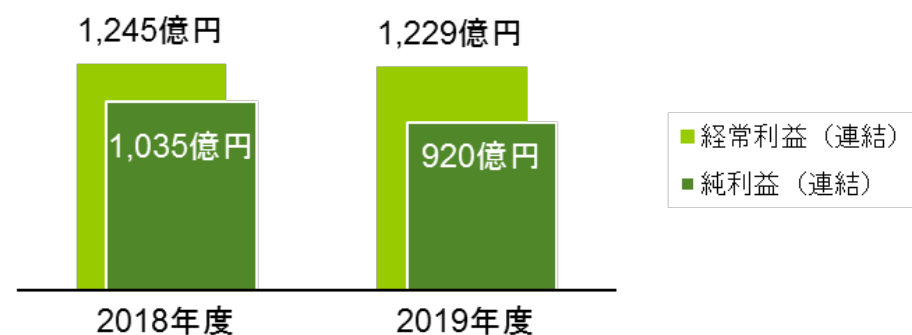
2019年度決算の総括

- 外貨調達費用の減少等もあり、安定的な収益を確保。自己資本比率は引き続き高水準

収益

【連結】 (単位: 億円)

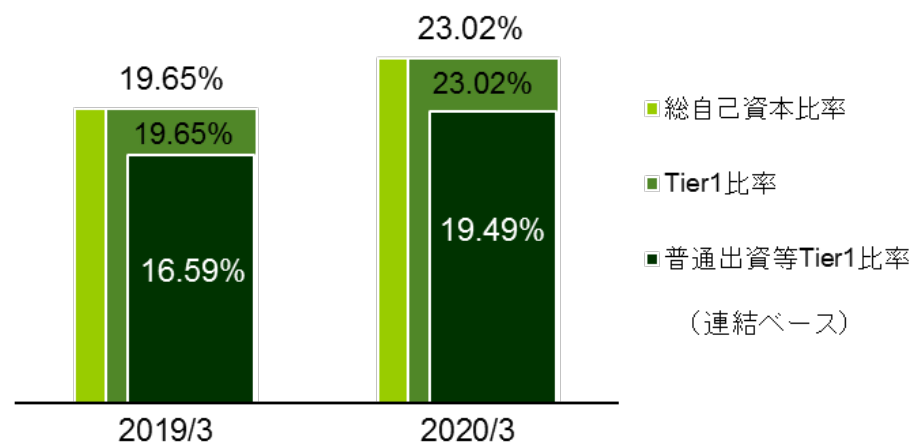
	2018年度	2019年度	増減
経常利益	1,245	1,229	▲ 16
純利益	1,035	920	▲ 115



自己資本比率 (バーゼルⅢ国際統一基準)

【連結】

	2019/3末	2020/3末	増減
普通出資等Tier1比率	16.59%	19.49%	2.90%
Tier1比率	19.65%	23.02%	3.37%
総自己資本比率	19.65%	23.02%	3.37%



損益の状況

■ 資金運用収益は減少も、外貨調達費用の減少を主因に資金調達費用も減少

【連結】

(単位: 億円)

	2018年度	2019年度	増減
1 経常収益	17,321	15,445	▲ 1,876
2 うち資金運用収益	13,112	12,466	▲ 646
3 (有価証券利息配当金)	11,784	10,920	▲ 864
4 (貸出金利息)	1,085	1,263	177
5 経常費用	16,076	14,216	▲ 1,859
6 うち資金調達費用	12,691	11,551	▲ 1,139
7 (信連等調達費用)	3,473	3,364	▲ 109
8 うち事業管理費	1,620	1,533	▲ 86
9 経常利益	1,245	1,229	▲ 16
10 税引前純利益	1,242	1,239	▲ 2
11 親会社株主帰属純利益	1,035	920	▲ 115

【単体】

	2018年度	2019年度	増減
12 経常利益	1,174	1,165	▲ 9
13 純利益	1,006	894	▲ 111

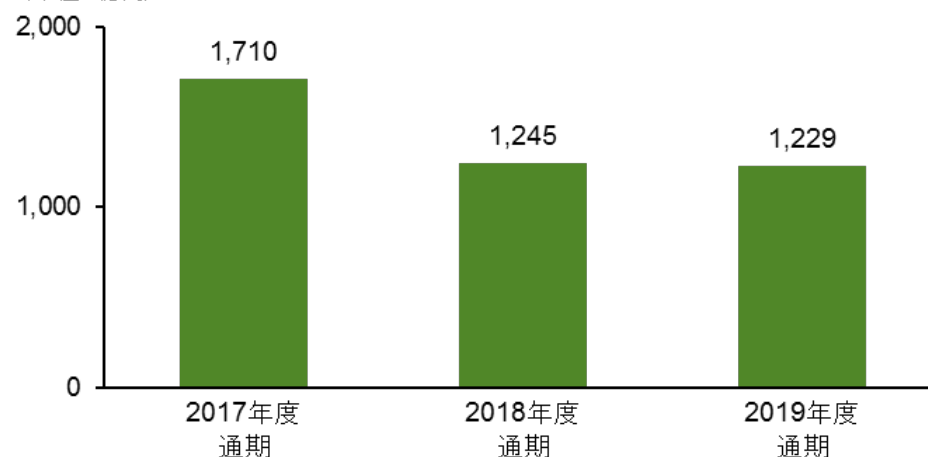
【参考値(単体)】

14 有価証券売却損益	663	679	16
15 与信関係費用(▲)(注)	19	24	5
16 有価証券償却(▲)	4	18	14

注: 与信関係費用のマイナス(▲)は戻入

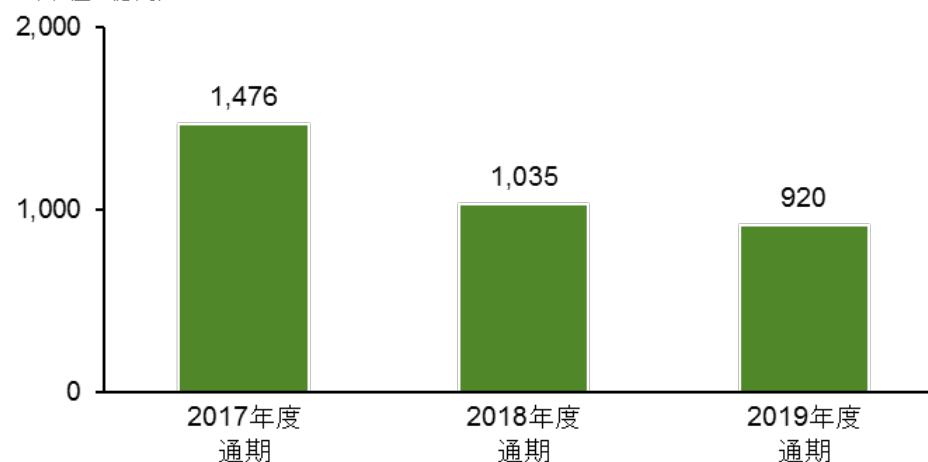
経常利益の推移(連結)

(単位: 億円)



純利益の推移(連結)

(単位: 億円)



バランスシートの状況

■ 国内外の貸出の伸長等により、貸出金は増加。有価証券・金銭の信託は売却・償還等により減少

【連結】

(単位: 億円)

		2019年3月末	2020年3月末	増減
1	貸出金	186,130	200,588	14,458
2	有価証券	556,587	545,332	▲ 11,254
3	金銭の信託	86,673	59,966	▲ 26,707
4	現金預け金	189,416	195,050	5,633
5	その他	40,731	53,881	13,150
6	資産の部合計	1,059,539	1,054,820	▲ 4,719
7	預金等 ^(注)	678,451	664,316	▲ 14,134
8	農林債	12,542	7,844	▲ 4,697
9	売現先勘定	151,112	157,265	6,152
10	その他	142,699	152,776	10,076
11	負債の部合計	984,806	982,203	▲ 2,603
12	純資産の部合計	74,732	72,616	▲ 2,116

注: 預金等は会計上の預金および受託金(会員からの短期資金受入が大半)

【単体】

		2019年3月末	2020年3月末	増減
13	資産の部合計	1,041,768	1,034,035	▲ 7,732
14	負債の部合計	967,949	962,286	▲ 5,662
15	純資産の部合計	73,818	71,748	▲ 2,070
16	その他有価証券評価損益	20,699	23,471	2,771

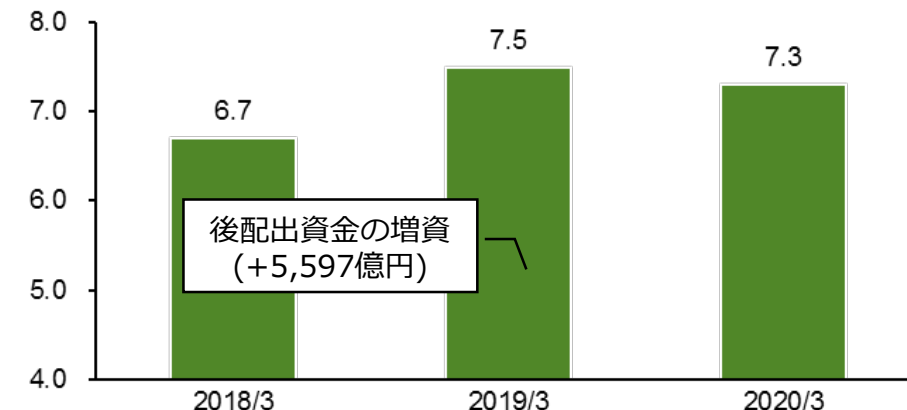
総資産の推移 (連結)

(単位: 兆円)



純資産の推移 (連結)

(単位: 兆円)

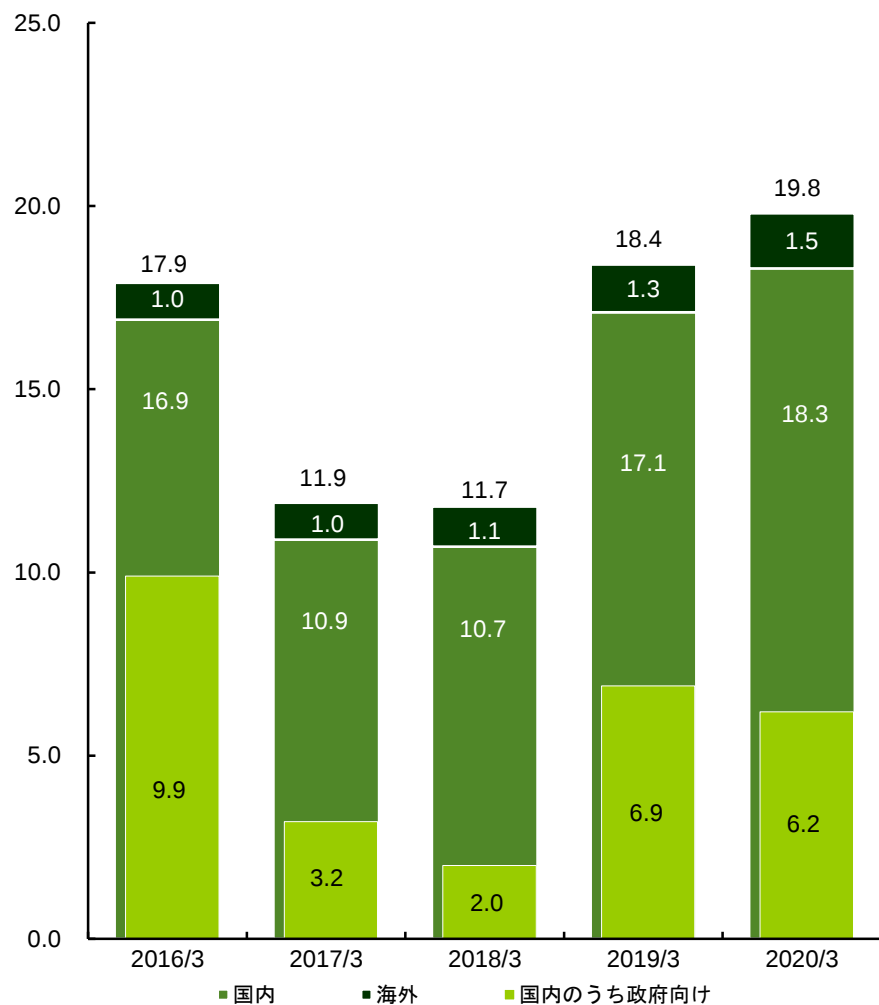


貸出金の状況（単体ベース）

■ 国内外の法人営業貸出等の伸長を受けて貸出金が増加

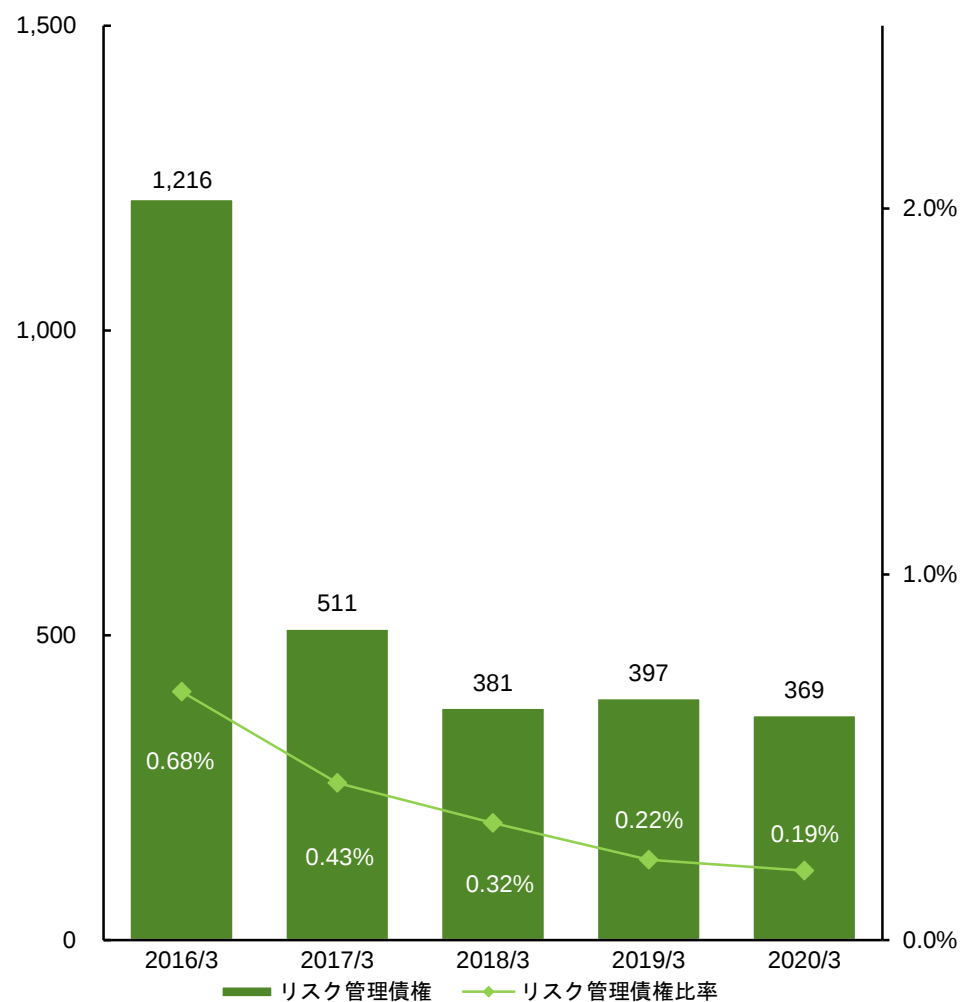
貸出金残高の推移

（単位：兆円）



リスク管理債権の推移

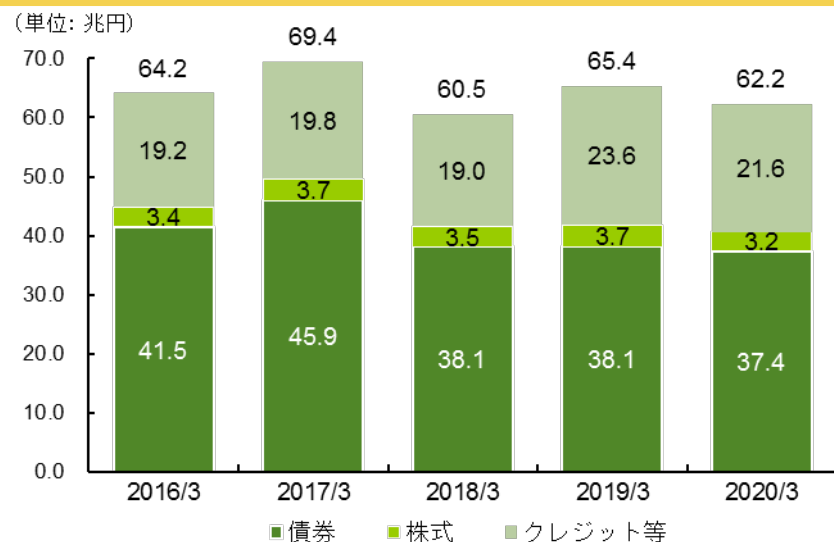
（単位：億円）



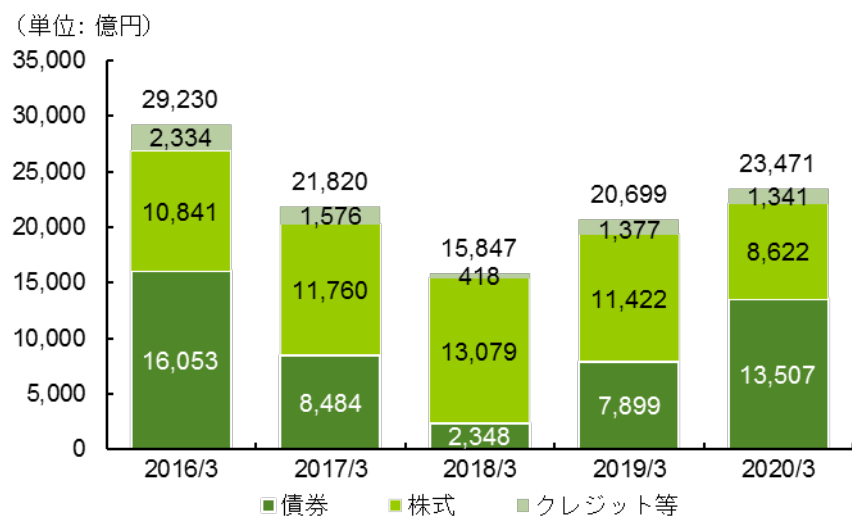
市場運用資産の状況（単体ベース）

- 有価証券評価益は2兆3,471億円。市場運用資産のうち約9割をA格以上の資産が占める

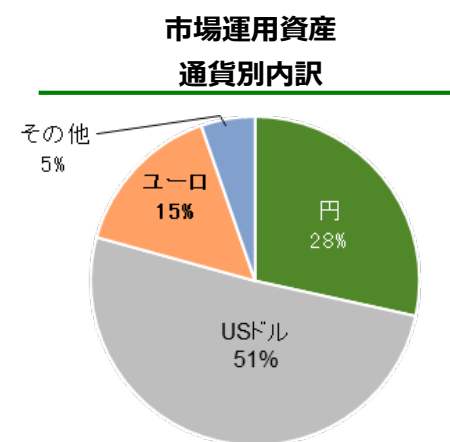
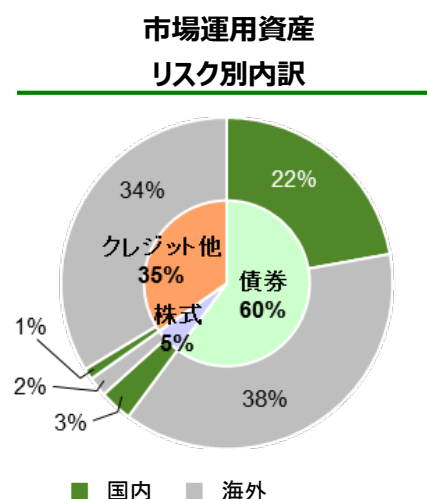
市場運用資産残高の推移



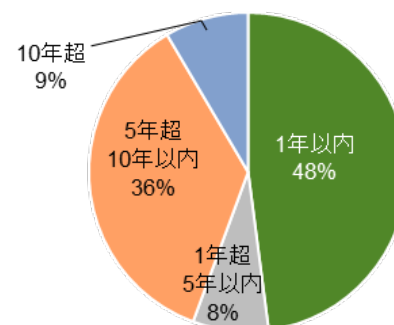
有価証券評価損益の推移



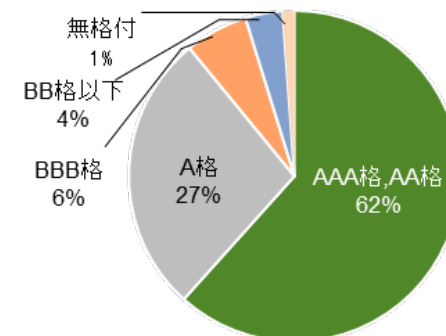
市場運用資産の状況（2020年3月末）



市場運用資産（満期がないものを除く） 金利更改満期別内訳



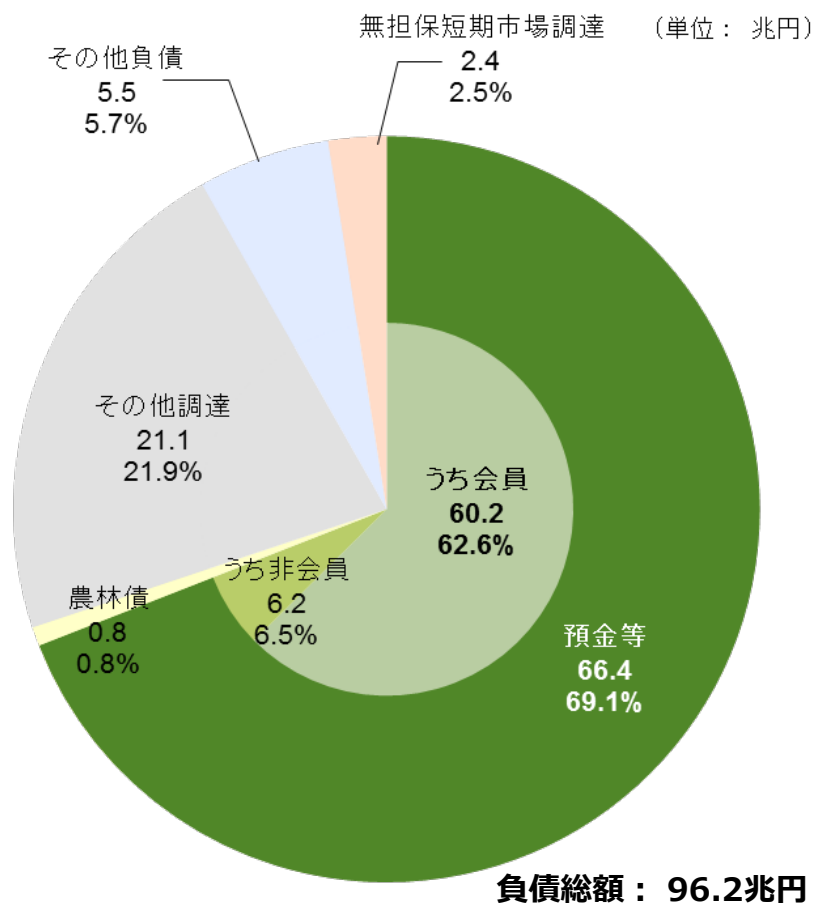
市場運用部門総資産 格付別内訳



資金調達の状況（単体ベース）

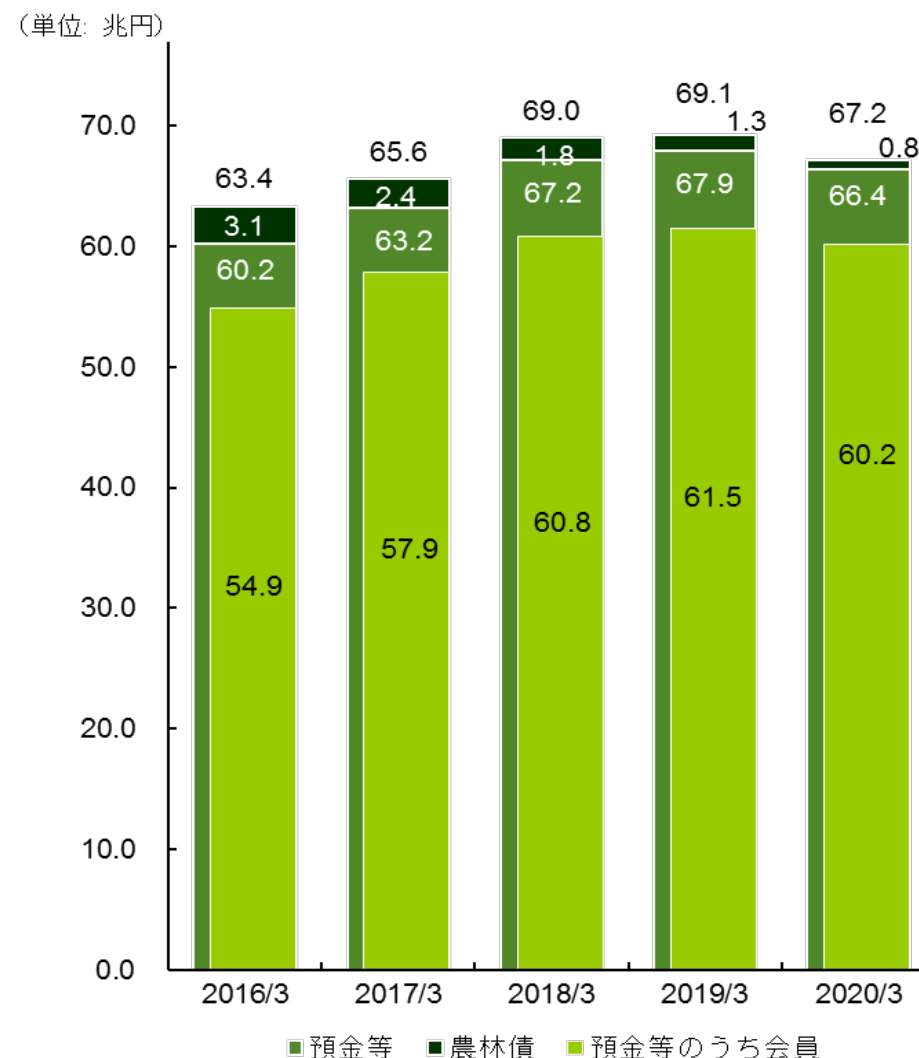
■ 会員からの預金を中心とする安定的な資金調達を実施

負債の種類別内訳



注：預金等は会計上の預金と受託金（会員からの短期資金受入が大半）。その他調達は有担保調達である売現先勘定・債券貸借取引受入担保金、および借入金（有担保、劣後ローン）等。その他負債は支払承諾、引当金等。無担保短期市場調達は特定取引負債、譲渡性預金および無担保コールマネー等

預金等・農林債残高の推移

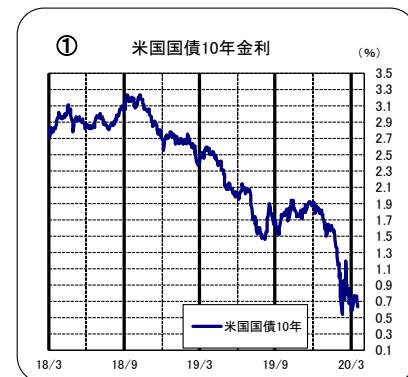
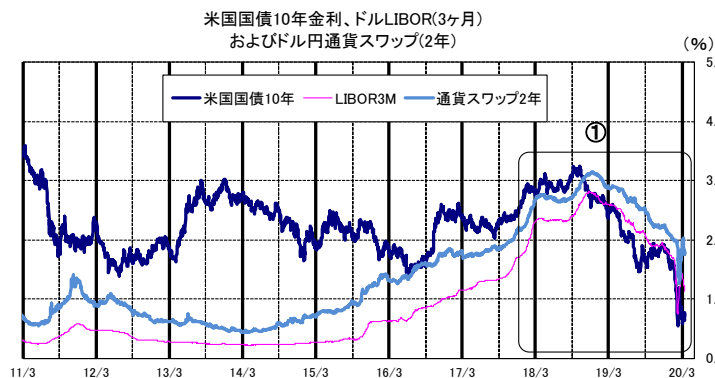


運用・調達利回り（単体ベース）

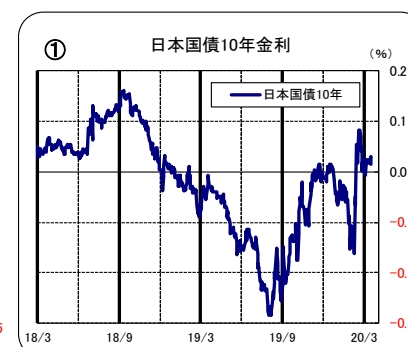
■ 米国の金利低下により、外貨調達利回りが低下し、外貨調達費用は減少

	平残（単位：兆円）		収支（単位：億円）		利回り	
	2019年度	前期比	2019年度	前期比	2019年度	前期比
【運用の状況】						
1 貸出金	19.1	5.0	1,158	119	0.60%	▲ 0.13%
2 有価証券等	56.1	0.1	12,770	▲ 1,374	2.28%	▲ 0.25%
3 円貨建有価証券等 （収支は売却損益含む）	16.6	0.7	▲ 181	▲ 2,541	▲ 0.11%	▲ 1.59%
4 外貨建有価証券等 （収支は売却損益含む）	39.4	▲ 0.5	12,952	1,167	3.28%	0.34%
5 短期運用資産等	1.3	▲ 1.5	110	▲ 3	0.80%	0.41%
【調達の状況】						
6 信連等調達	60.8	▲ 0.8	3,364	▲ 109	0.55%	▲ 0.01%
7 農林債券	1.0	▲ 0.4	18	▲ 16	0.18%	▲ 0.05%
8 市場調達	26.8	1.8	3,382	99	1.26%	▲ 0.06%
9 円貨市場調達	4.1	0.8	▲ 8	▲ 6	▲ 0.02%	▲ 0.01%
10 外貨市場調達	22.7	1.0	3,391	105	1.49%	▲ 0.02%
（参考）						
11 外貨調達費用 （通貨スワップ等含む）	42.3	0.0	7,501	▲ 749	1.77%	▲ 0.18%

（参考）米ドル金利の推移



（参考）円金利の推移



自己資本比率等

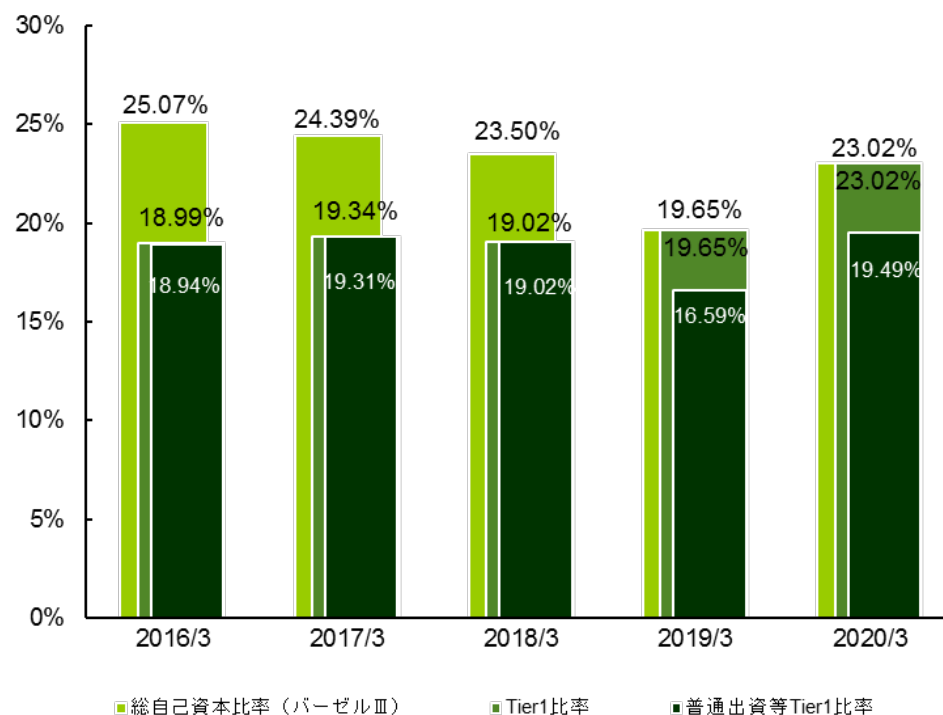
■ 自己資本比率は信用リスク・アセットの減少を主因として上昇、引き続き高水準を維持

【連結】

(単位: 億円)

	2019年3月末	2020年3月末	増減
1 Tier1	84,898	85,990	1,092
2 普通出資等Tier1 (CET1)	71,705	72,807	1,102
3 うち資本金及び資本剰余金	40,152	40,152	-
4 うち利益剰余金等	19,215	19,383	167
5 うち其他有価証券評価差額金	15,017	17,016	1,998
6 その他Tier1	13,193	13,183	▲9
7 Tier2	11	12	0
8 うち劣後債務	9	9	-
9 総自己資本	84,910	86,003	1,093
10 リスク・アセット	432,002	373,449	▲58,552
11 普通出資等Tier1比率 (CET1比率)	16.59%	19.49%	2.90%
12 Tier1比率	19.65%	23.02%	3.37%
13 総自己資本比率	19.65%	23.02%	3.37%

連結自己資本比率の推移



連結レバレッジ比率

	2019年3月末	2020年3月末
14 連結レバレッジ比率	7.87%	8.04%

連結流動性カバレッジ比率

	2019年度	1Q	2Q	3Q	4Q
15 連結流動性カバレッジ比率(注)	320%	402%	378%	383%	383%

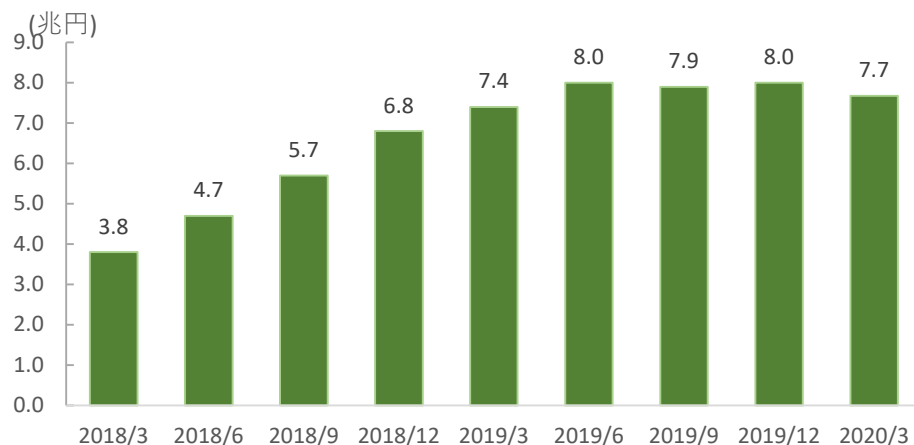
注： 項目15は対象四半期の平均値

Appendix

市場運用資産(CLO)について

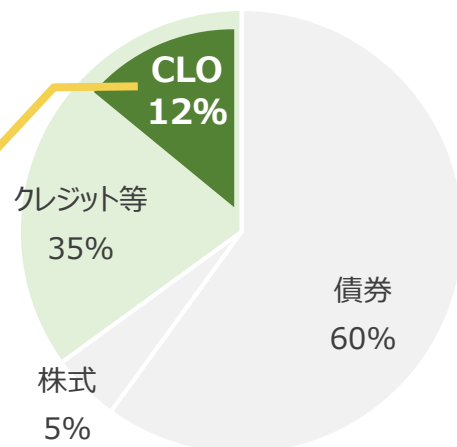
- 詳細な分析や適切なリスク管理態勢の下、リスク・リターンを勘案しながら慎重な投資を実施

投資残高の推移



市場運用資産に占める割合・資産内容

- 市場運用資産の12%
- 全てAAA格
- 全て満期保有目的



※四捨五入のため、各数値の合計が100%とならない場合があります

投資にあたっての分析・リスク管理

投資対象

- AAA格に限定

裏付資産

- 組入可能資産についての厳格な基準設定
- 裏付資産内の個別銘柄・業種の分析

ストラクチャー

- 信用補完水準等についての独自ガイドライン
- 当金庫独自の厳格なストレステスト
- ミドル部門による全件審査

運用マネージャーの選定

- 投資前のデューデリジェンスを通じた、運用能力・投資スタンスの確認

投資後のモニタリング

- マネージャーとの綿密なコミュニケーション
- 投資ガイドライン遵守状況、運用方針、裏付資産の質等の確認

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う対応

融資・出資などの金融対応

JAバンク

- 新型コロナウイルス感染症の拡大により影響を受けているお客さまに対して、低利融資の取扱いを開始するとともに、既往貸出金の返済条件の変更を含めたご相談に対応
- また、低利融資を農業者の方に一層円滑にご利用いただくために、低利融資に対する保証料の負担を軽減する対応も開始

JFマリンバンク

- JFマリンバンクにおいても、低利融資および既往貸出金の返済条件の変更を含めたご相談に対応

農林中央金庫

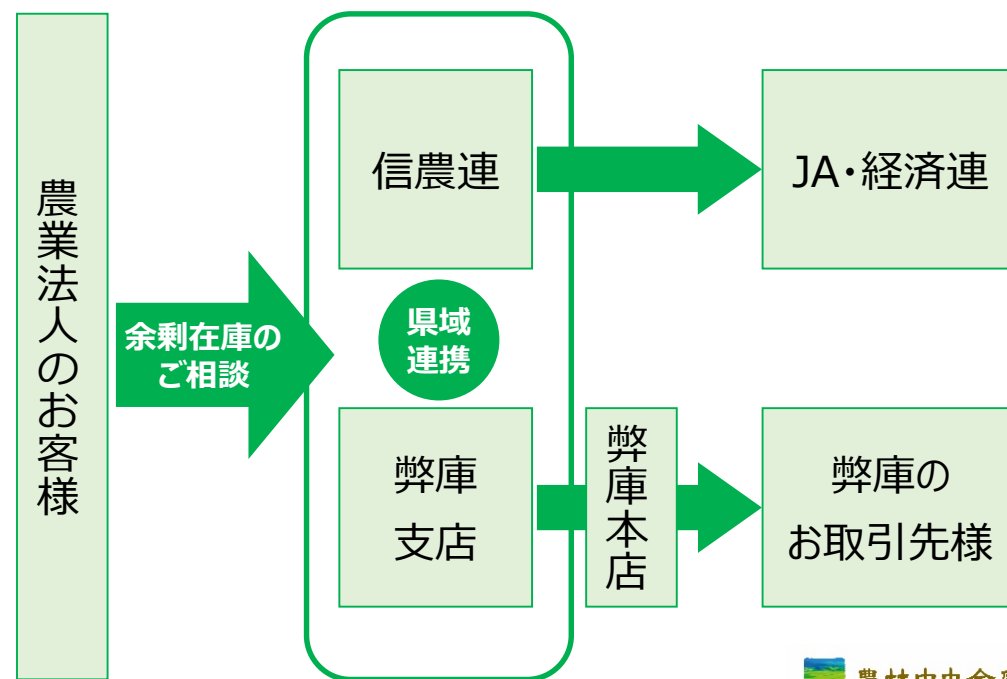
- 農業法人等の資金繰り等に対する支援に向け、「新型コロナウイルス感染症対策緊急資金」の取扱いを開始
- また、アグリビジネス投資育成(株)が出資するスキームを用いて、新型コロナウイルス感染拡大によって被害を受けた農業法人等を出資対象に追加することで、財務を出資面から支援

金融対応以外の対応

JAバンク・農林中央金庫

- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、給食・外食・ホテル向けの野菜出荷が停止し、農業法人等では多大なる食品ロスが発生する事態が頻発
- かかる中、JAグループが一体となって連携し、販路確保支援を展開した結果、余剰在庫の大部分に関して系統内外でのマッチングに成功

JAグループのネットワークで新たな販路確保ができた事例



サステナブル経営の取組み

- 「サステナブル中期目標」の達成に向け、2020年度は農林水産業を取り巻くサステナビリティの課題を踏まえた5つの重点取組事項を設定。
- これに基づく具体的な取組みを経営計画上に定め、実践することで、農林水産業や地域社会のサステナビリティ確保に貢献してまいります。

目指す姿

気候変動や人権配慮等、環境・社会課題の解決に事業活動を通じて貢献し、
農林中央金庫の事業基盤である、農林水産業や地域社会の持続可能性(サステナビリティ)を確保する

貢献する
主なSDGs：



2020年度重点取組事項

- 1 農林水産業のサステナビリティ確保
- 2 循環型社会の実現に向けた貢献
- 3 地域コミュニティの発展への貢献
- 4 環境・社会に配慮した投融資
(サステナブルファイナンス)
- 5 サステナブル経営の実践に向けた
組織基盤の構築

2020年度経営計画における具体的な取組み（例）

ビジネス機会獲得

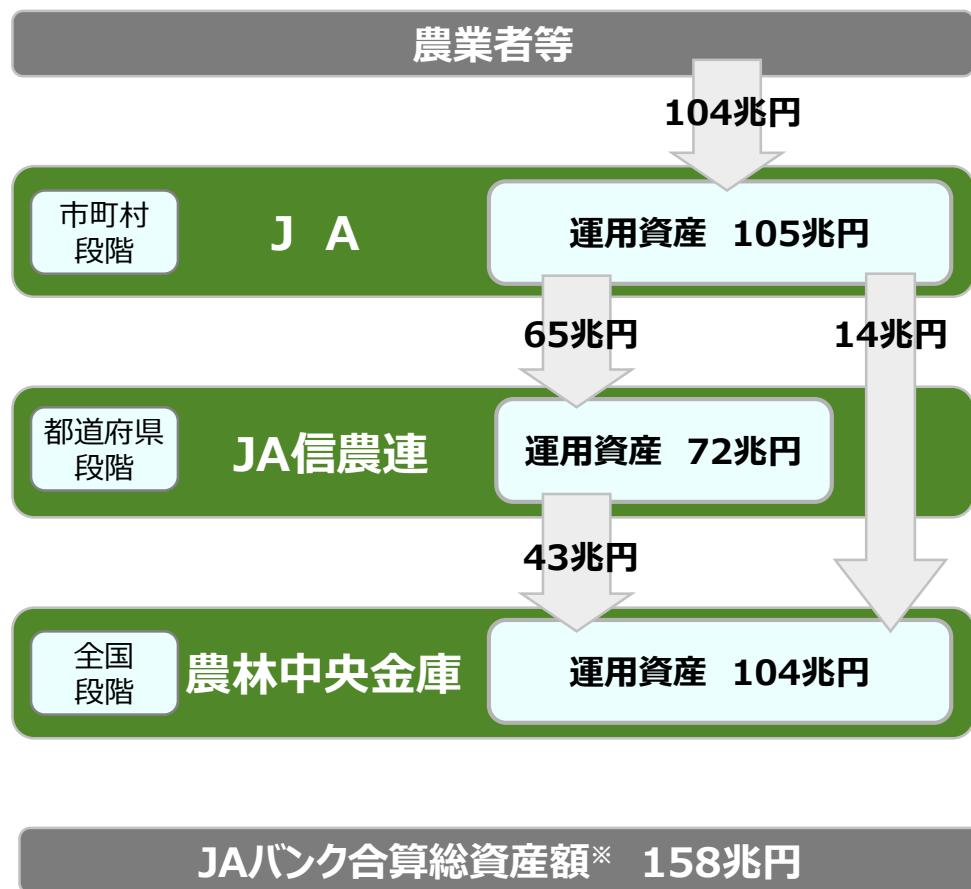
- ◆ ESG投融資目標2,500億円
 - ✓ 新規投融資目標2,500億円設定
(2019年度末残高は1.8兆円)
- ◆ サステナビリティ・リンク・ローン
 - ✓ お客様の環境・社会課題解決と
企業価値向上をサポート
- ◆ 農業者の取組支援
 - ✓ 営農型発電事業（ソーラーシェア
リング）、農泊事業の運営を支援

リスク管理

- ◆ 環境・社会リスク管理
 - ✓ 投融資実行前後で信用/座礁資産
リスク、評判リスクを管理
 - ✓ パーム油生産、森林伐採を投融資
制限セクターとして追加、運用開始
- ◆ 気候変動への対応
 - ✓ 2019年に賛同表明したTCFDに
基づく段階的な情報開示
 - ✓ 農林水産業を取り巻く環境・社会課
題の中でも、気候変動は特に重大と
認識し、適応・緩和策を検討

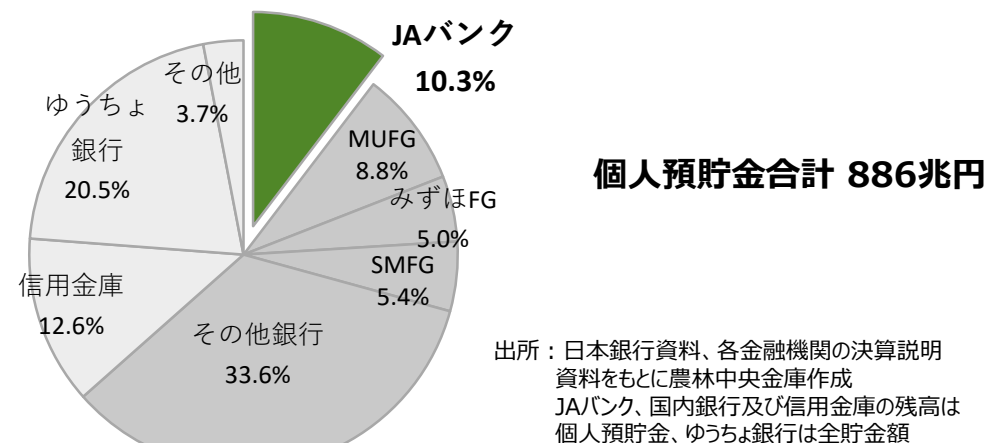
(参考) JAバンクの事業基盤

JAバンクにおける預貯金の流れ（2020年3月末）



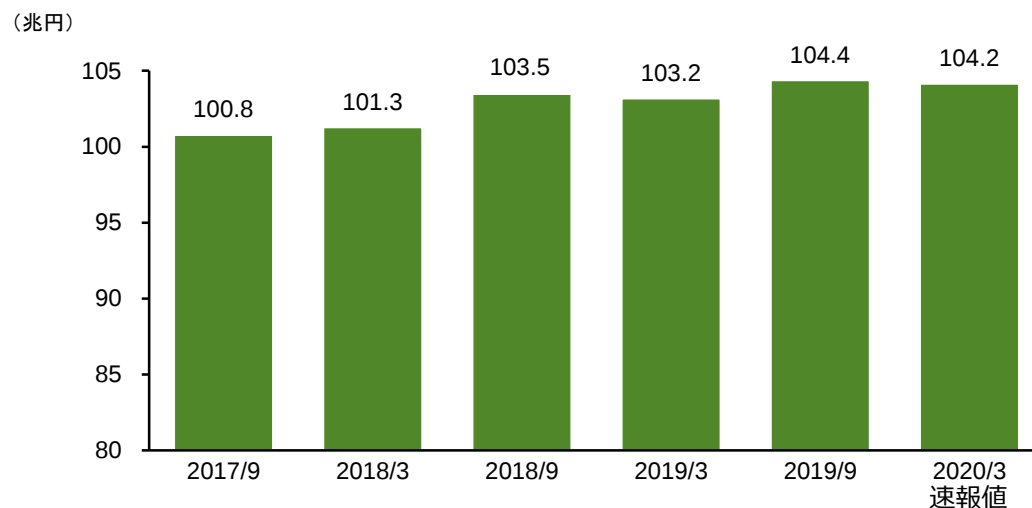
※ 合算総資産額：運用資産－預け金

国内個人預貯金残高シェア（2019年9月末）



※四捨五入のため、各数値の合計が100%とならない場合があります

JA貯金残高の推移



ご利用の皆様へ

- 本プレゼンテーション資料に記載されている情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性・適切性等についての検証を行っておらず、また、これを保証するものではありません。弊金庫は、本プレゼンテーション資料に記載されている情報の利用から生じる損害が直接的、また、間接的であるかに関わらず、何ら責任を負いません。
- 本プレゼンテーション資料には、弊金庫に関連する見通し、計画、目標などの将来に関する記述がなされています。これらの記述は、当金庫が現在入手している情報に基づき、本プレゼンテーション資料の作成時点における予測等を基礎としてなされたものです。また、これらの記述は、一定の前提（仮定）の下になされています。これらの記述または前提（仮定）が、客観的には不正確であったり、または将来実現しない可能性があります。
- 本プレゼンテーション資料は、有価証券の販売のための勧誘を構成するものではありません。